

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) サブクエスト



ラノシア編

低地ラノシア

新農法の試行錯誤

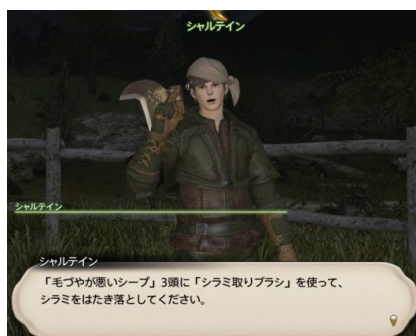
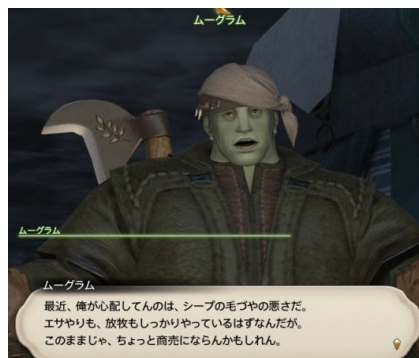
- アンクタ**：この先のレッドルースター農場では、私の祖父、アナオクが農場長を務めているんだ。
その祖父に、農場で使う「リバートードの肝」を集めてくれと頼まれているんだが……。私は力エルが苦手だね。
眼鏡橋周辺にいる「リバートード」を倒して、「リバートードの肝」を3個集めてきてくれないか？
- アンクタ**：ありがとう、助かったよ。だが、私は、この場をしばらく離れられない。頼まれついでに、このまま肝を届けてくれないか？
レッドルースター農場にいる私の祖父「**アナオク**」に渡せば大丈夫だ。駄賃も払ってもらえるだろうから、ひとつ頼むよ。



- アナオク**：孫娘のアンクタに頼んだ「リバートードの肝」はまだ届かんのかのう……。？
おやおや、うちの孫娘に、厄介ごとを押し付けられてしまいましたか。おかげで、助かりましたぞ。
西の新大陸では、魚の肝を肥料に使うと聞いて、「リバートードの肝」でも同じことができんかと思ひましてな……。
この農場では、新しい農法や家畜の飼育法を色々とお試しておるのです。
おかげで、仕事が山積みじゃ。よければ、うちの者たちの力になってください。

ぼさぼさシープ虫除け法

- ムーグラム**：このレッドルースター農場では、3種類の家畜を飼育してるんだ。それらを統括してるのが、**獣牧士**であるこの俺さ。
最近、俺が心配してるのは、シープの毛づやの悪さだ。エサやりも、放牧もしっかりやっているはずなんだが。
このままじゃ、ちょっと商売にならんかもしれん。
なんとか対策を考えなきゃなんねえ。シープの世話をしている牧童「**シャルティン**」に、相談してみてくれないか？

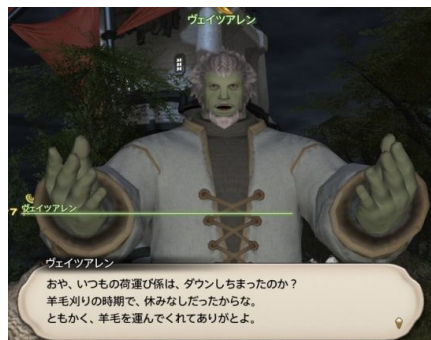
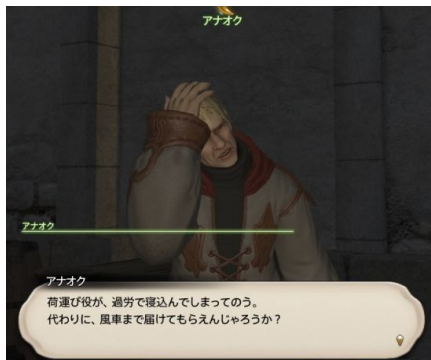


- シャルティン**：確かに毛づやは、僕も気になってるんですね……。たぶん、シープにシラミがたかっているんだと思うんです。
ただ、僕ひとりでは、駆除しようにも手が回らなくて……。そうだ、あなたも手伝ってくださいませんか？
「毛づやが悪いシープ」3頭に「シラミ取りブラシ」を使って、シラミをはたき落としてください。
終わったら、「ムーグラム」さんにもう大丈夫だって、伝えてあげてください。
- ムーグラム**：なるほど、あんたもシープの世話を手伝ってくれたのか。すまなかったな、そんなつもりじゃなかったんだがよ。
シープってのは、意外と繊細な生き物だな。ちょっとした変化にも気をつけてやらねえと、
質の高い、艶のある羊毛を伸ばしちゃくれないんだ。
だが、あんたのおかげで今回は助かったよ。これで今年も、いい羊毛が刈り取れそうだ。

ラノシア名産ふわふわウール

アナオク：この農場では、シーブの飼育もやっておってな。刈り取った羊毛は、麻袋に詰めて保管しておるのです。普段なら、北東にある風車へと運び、そこで縮絨（しゅくじゅう）してフェルトに加工するんじゃが……荷運び役が、過労で寝込んでしまっつてのう。代わりに、風車まで届けてもらえんじやろうか？

シーブの囲いのそばにある「羊毛入りの麻袋」をグレイフリート風車群の風車番頭「**ヴェイツアレ**」へ届けてください。



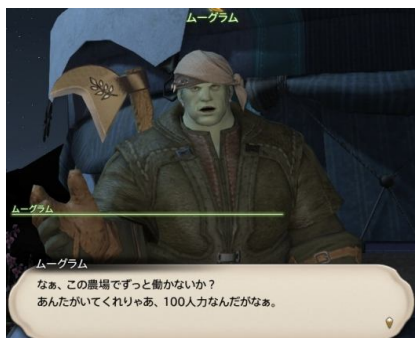
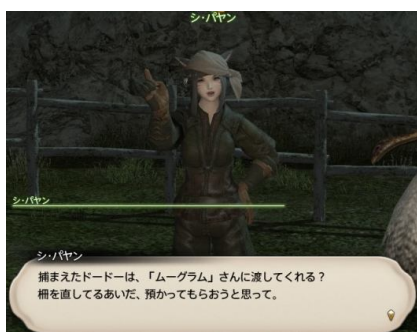
ヴェイツアレ：「羊毛入りの麻袋」は、まだ来ねえのか……。そろそろ届かないと、期日までに羊毛の加工に間にあわねえ……。おや、いつもの荷運び係は、ダウンしちゃったのか？羊毛刈りの時期で、休みなしだったからな。ともかく、羊毛を運んでくれてありがとよ。

この風車では、中にある機械で、湿らせた羊毛に圧力を加えてフェルトにしているんだ。それもこれも羊毛がなくちゃ、始まんからなあ。

とんずらドードー捕り物帖

ムーグラム：このレッドルースター農場では、ドードーの飼育も大々的に手がけてるんだ。ドードーは、肉も卵も実に美味しい！有毒なブレスを作る「毒腺」って器官さえ、幼鳥の時に取っつまえば、安全に飼育もできるしな。だが、その大事なドードーが逃げちゃったんだ。ドードー担当の牧童「**シ・パヤン**」から話を聞いて、助けてやってくれよ。

シ・パヤン：ドードーを捕まえるの、手伝ってくれるのっ！？すごく助かるっ！あの子たち、柵を壊して出ていっちゃったのよ。門番さんは見てないって言ってるから、農場のどこかにいるんだろうけど……。 「とんずらドードー」は、全部で3羽。見つけたら、この「大きな麻袋」をかぶせて捕まえて！捕まえたドードーは、「ムーグラム」さんに渡してくれる？柵を直してるあいだ、預かってもらおうと思って。

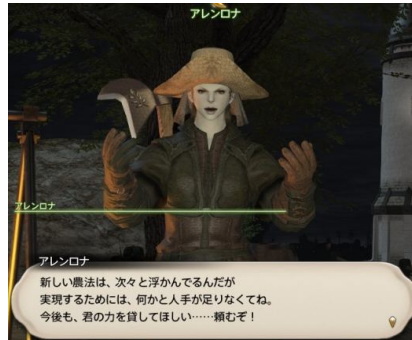


ムーグラム：話は聞いてるぞ、「ドードー入りの麻袋」は俺が預かっておこう。まったく、とんだ暴れん坊だぜ。家畜にするため毒腺を切ったから、傷が治るまで、しばらく大人しいと思ってたのに。それにしても、大した手際だな。シーブにしてもドードーにしても、あんたの前じゃ簡単に大人しくなっちゃうとは……。なあ、この農場ですっと働かないか？あんたがいてくれりゃあ、100人力なんだがなあ。

本草学者アレンロナの復讐

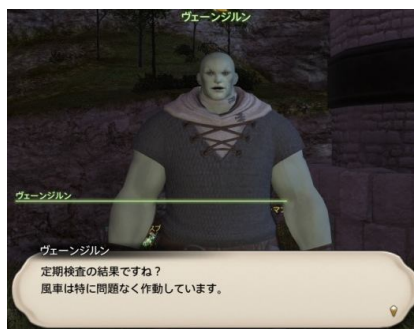
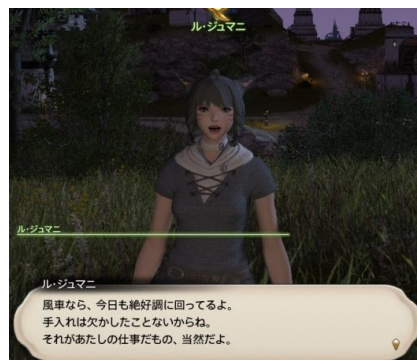
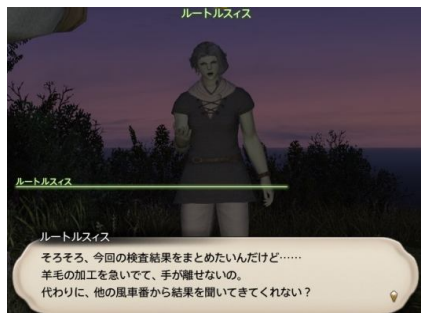
アレンロナ：君は……冒険者だな？ 私はここで、農業に関する研究をしている者だ。この農場の発展のため、君の力を貸してほしい。
この農場では、私が品種改良した「オーガパンプキン」を栽培してるんだが、モグラ穴にウネを台無しにされて、頭に来ててね！
「パンプキン畑」を調べて、憎き「クレバー・ヘッジモール」を叩き出して、一掃してきてくれ。

アレンロナ：どうやら、首尾よくいったようだな。これで私の大事なパンプキンも、すくすく育つだろう。
この農場では、収穫量を増やすために、実験的な農法を積極的に導入しているね。
私がこの農場に呼ばれたのも、新農法を開発するためさ。
新しい農法は、次々と浮かんでるんだが実現するためには、何かと人手が足りなくてね。
今後も、君の力を貸してほしい……頼むぞ！



我らが風車番

ルートルスイス：あら冒険者さん。見て、この風車……立派でしょ？ 定期検査をやって、しっかり保守しているからね。
そろそろ、今回の検査結果をまとめたいんだけど…… 羊毛の加工を急いでて、手が離せないの。
代わりに、他の風車番から結果を聞いてきてくれない？
3人の風車番から話を聞いたら、風車番頭の「**ウェイツアレン**」に教えてあげて。あの人が、風車全体の管理をしているのよ。

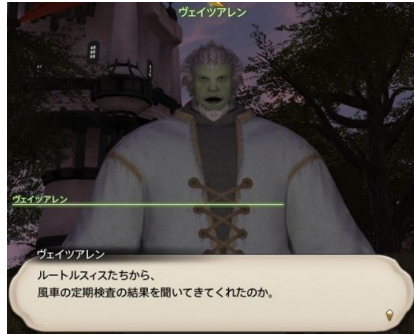


ル・ジュマニ：風車なら、今日も絶好調に回ってるよ。手入れは欠かしたことはないからね。それがあたしの仕事だもの、当然だよ。
羊毛の加工も、粉ひきも、全部風車でやってるんだから。もしも壊れたら一大事ってわけ。

ヴェーンジルン：定期検査の結果ですね？ 風車は特に問題なく作動しています。
私としては、むしろ魔物の被害が気になりますね。せっかくひいた小麦が、魔物に奪われることが増えている気がして……。

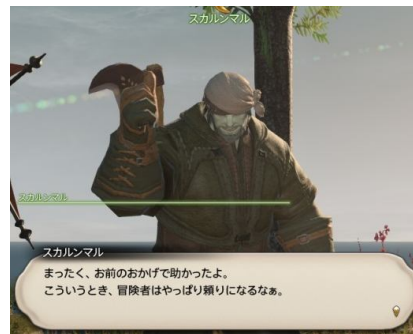
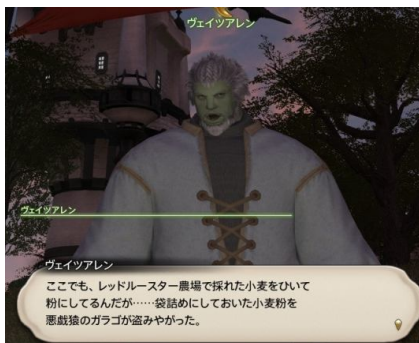
エシュシュ：ワシんところの風車の様子か？ じゃあ、お前さんもワシと一緒に、その目で風車の様子を確認しようじゃないか。
ふうむ……ちと帆が傷んでておるかのう。まだ、張り替えが必要なほどではないがな。
ここの風車に使われている布は、もともと船の帆布を転用しておるもんだな。潮風には、かなり強いほうなんじゃ。

ヴェイツアレン： ルートルスイスたちから、風車の定期検査の結果を聞いてきてくれたのか。
ふむ、エシュシュの二番風車だけは、少し心配だな……替えの帆布の準備だけはしておくか。
先に手を打っておけば、いざ事が起こったときに迅速に対応できるからな。
そうやって、うちの風車群は動き続けることができるのさ。



小麦粉泥棒

ヴェイツアレン： 風車ってのは、羊毛の加工だけじゃなく、ほんとに色々な力仕事をしてくれるんだ。たとえば、石臼をひいたりな。
ここでも、レッドルースター農場で採れた小麦をひいて粉にしているんだが……袋詰めにしておいた小麦粉を
悪戯猿のガラゴが盗みやがった。
あんた「ガラゴ」を退治して、「小麦粉袋」を4袋取り戻してくれねえか？
取り戻したら、レッドルースター農場の「スカルマル」に届けてやってくれ。農場に運ばれてくる荷物は、そいつが管理してるんだ。



スカルマル： ううん、「小麦粉袋」が届かんぞ……。風車番のヴェイツアレンのヤツ、何してやがる……。？
まいった、このままだと出荷に影響が出ちゃうな。
なるほど、お前が小麦をガラゴから取り戻してくれたのか。ヤツら、隙あらば作物を盗もうとするからなあ。
まったく、お前のおかげで助かったよ。こういうとき、冒険者はやっぱり頼りになるなあ。
この農場には、兵隊は常駐していないんでね。腕っ節が必要になる問題が起きたら、
お前らみたいな冒険者の力を借りるしかないのさ。

本草学者アレンロナの挑戦

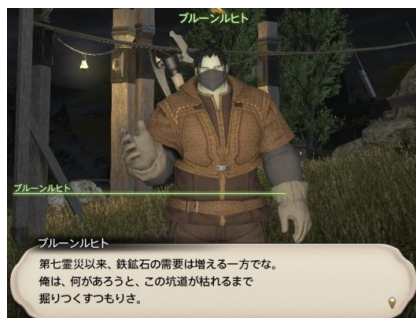
アレンロナ： やあ、この農場の発展のために、ちょっと働いてはくれないか？
今、新しい農薬を開発していてね、その材料を集めてきてほしいんだ。
「レディバグ」を仕留めて、「苔色の体液」を3杯ほど、手に入れてきてほしい。
奴らの好物であるアブラムシから精製したこの「半透明の粘液」を「アルジクラベンダー」に撒けば、即座に姿を現すはずさ。

アレンロナ： 「レディバグ」から採れる「苔色の体液」を3杯ほど手に入れてくれ。
レディバグは、アブラムシを捕食する。ならば、作物を食い荒らすアブラムシを寄せ付けないためには、
天敵の臭いを利用するのが一番！
この体液を使った薬液を、畑に散布すればどうなるか…… 試してみる価値はあるだろう？

霞む坑道

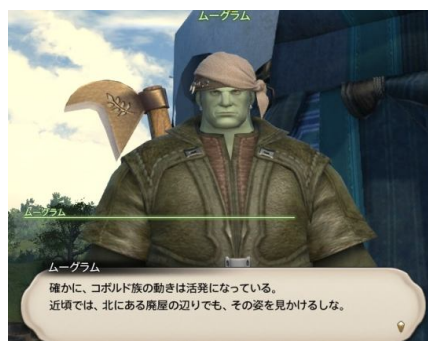
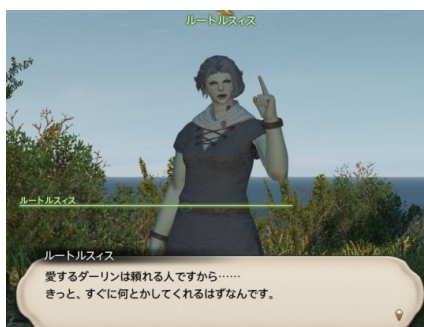
ブルーネルヒト : あんた、坑道の中へ行くつもりか？ だったら、あんたの力を貸してくれ。
この坑道で鉄鉱石を掘ってたら、硫黄ガスが吹き出してきてな。酷い臭いで、仕事になんねえから、ガスの噴出を止めてほしいんだ。
原因は、おそらく土属性の力が失われてるせいだ。この「高純度アースクリスタル」を、噴出口に詰め込めば、ガスが止まるだろう。
ただ、硫黄の臭いに釣られて、サーフィド・クラウドがたかってくることもあるからくれぐれも気をつけてくれよ。

ブルーネルヒト : ああ、深呼吸ができる……！ でかしたぞ、冒険者！ これで仕事が再開できる。
この坑道で掘っていると、ちょくちょく硫黄ガスが発生するんだが、ビビってちゃ、稼げやしねえ。
第七霊災以来、鉄鉱石の需要は増える一方だな。俺は、何があろうと、この坑道が枯れるまで掘りつくすつもりさ。



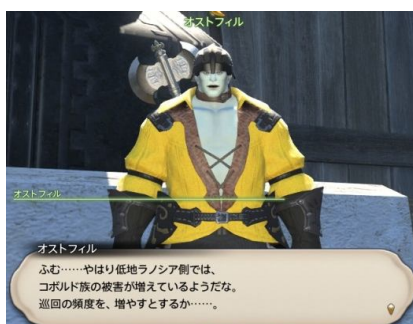
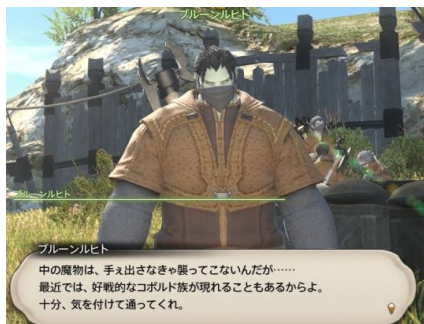
コボルド族に気をつけろ

ルートルスイス : 最近、このあたりも物騒になって…… ついこの間も、コボルド族に荷車が襲われたのを見ました。
こんなことでは、安心して仕事もできません。なのに、ヴェイツアレンは大丈夫だとか、
のん気なことばかり言って、取り合ってくれないんです。
冒険者さん、「レッドルースター農場」にいる私のダーリン、「ムーグラム」にこのことを伝えてくれませんか？
愛するダーリンは頼れる人ですから…… きっと、すぐに何とかしてくれるはずなんです。



ムーグラム : 確かに、コボルド族の動きは活発になっている。近頃では、北にある廃屋の辺りでも、その姿を見かけるしな。
我が愛する妻のためにも、イエロージャケットに陳情したいところだが……、このレッドルースター農場には衛兵がおらんぞな。
冒険者よ、悪いんだが「ラザグラン関門」に行って、イエロージャケットの「オストフィル」に
俺が記した「コボルド族に関する覚書き」を届けてくれんか？
「ラザグラン関門」は、ブラインドアイアン坑道を抜けて行くと近い。詳しい道筋は、坑道にいる「ブルーネルヒト」に聞いてくれ。

ブルーネルヒト : 「ラザグラン関門」に行きてえのか？ 確かに、このブラインドアイアン坑道を抜ければ近いな。
中の魔物は、手え出さなきゃ襲ってこないんだが…… 最近では、好戦的なコボルド族が現れることもあるからよ。
十分、気を付けて通ってくれ。

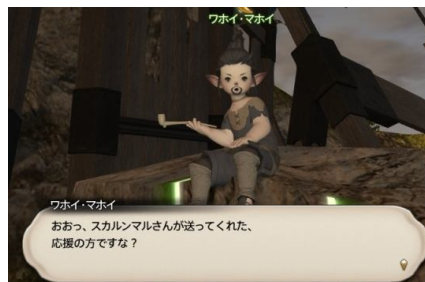
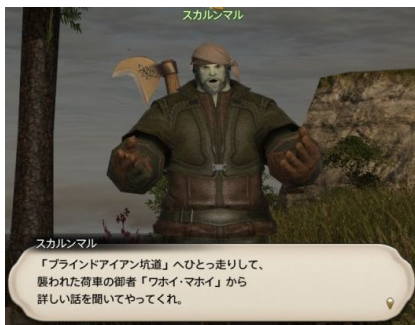


オストフィル : ふむ、何か届け物でもあるのか？
レッドルースター農場のムーグラムが記した「コボルド族に関する覚書き」だと？
ふむ……やはり低地ラノシア側では、コボルド族の被害が増えているようだね。巡回の頻度を、増やすとするか……。
コボルド族といえど、かつては西ラノシア方面から攻撃をしかけてきたものだが……。あちら側にも警戒を呼びかける必要があるだろう。
すまんが君、一働き頼みたい。「サマーフォード庄」の「シュテールヴィルン」に、
コボルド族に警戒するよう、俺が言っていたと伝えてくれ。

シュテールヴィルン : コボルド族の動向に警戒しろと、イエロージャケットのオストフィルが言っていたと？
しかし、この所、西ラノシアでコボルド族は見かけんな。脅威になっているのは、もっぱらサハギン族の方さ。
まあいい、せつかくの忠告だ。わざわざ無視することもない、一応は注意するとして。

因縁のコボルド族

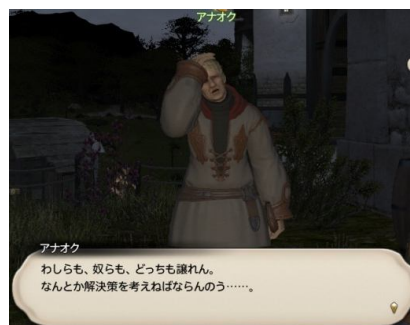
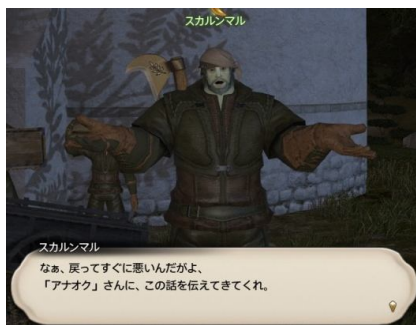
スカルンマル : 俺は農場に出入りする荷物を管理してるんだが、ちょいと俺の領分で問題が起きちゃったんであんたの力を貸してほしい。
この農場へ向かってた荷車が、ブラインドアイアン坑道の中で何者かに襲われて、立ち往生してるって連絡があった。
「ブラインドアイアン坑道」へひと走りして、襲われた荷車の御者「ワホイ・マホイ」から詳しい話を聞いてやってくれ。



ワホイ・マホイ : おお、スカルンマルさんが送ってくれた、応援の方ですね？
実は、荷車がコボルド族に襲われて、運んでいた物資をほとんど奪われてしまいました。
これを、少しでも取り返したいのです。
ヤツらの残党が、まだ荷車の近くにいるはず。あなたが「襲われた荷車」を調べれば、姿を現すでしょう！
出てきた「コボルド・ダストマン」と「コボルド・サブリカント」を倒して、奪われた物資を取り戻してください！

ワホイ・マホイ : ありがとうございます！ これだけでも、戻れば十分です。
自分は、片づけがありますので、すいませんが、取り戻した物資をレッドルースター農場の「スカルンマル」さんに届けてください。

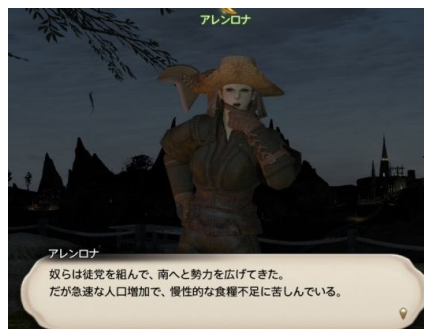
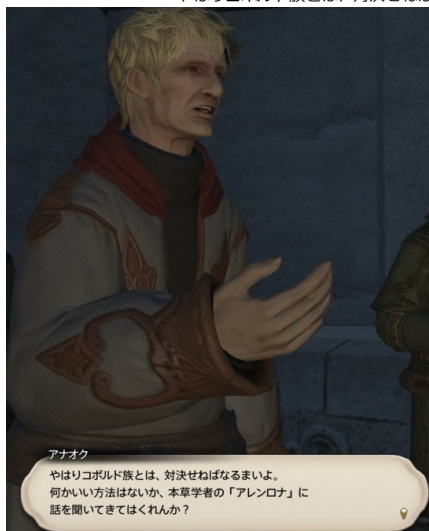
スカルンマル : おお、戻ったのか？ 荷車や荷物はどうだったんだ？
3個とはいえ、届いただけ感謝だな。それにしても、やっぱりコボルド族の仕業だったか……。
そうじゃねえかとは、うすうす思ってたんだ。
最近、そういう事件が多くてな……。こうも立て続けに荷が襲われると、仕事もままならん。
農場長に知らせておかなくちゃな。
なあ、戻ってすぐに悪いんだがよ、「アナオク」さんに、この話を伝えてきてくれ。



アナオク : なるほどのう、またコボルド族が襲ってきたのか。まったく困ったもんじやわい……。
最近、連中との土地争いが激しくなってるう。しかし、わしらとて食ってくためには、退くわけにはいかんのですじゃ。
わしらも、奴らも、どっちも譲れん。なんとか解決策を考えねばならんのう……。

シダーウッド紛争

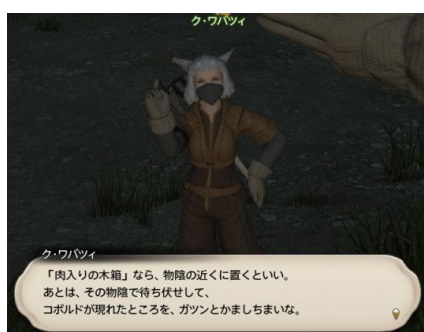
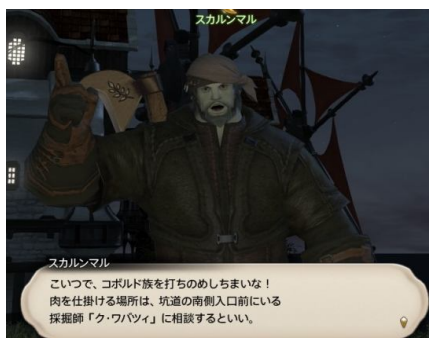
アナオク : お前さんにも協力してもらおうように、最近、このレッドルースター農場周辺では、コボルド族の襲撃が増えておる。コボルド族というのは、パイルブランド島の北部オ・ゴモロ山一帯を支配している蛮族じゃ。もともと、奴らとは古き盟約があつてな。「海洋資源はリムサ・ロミンサに、地下資源はオ・ゴモロに」……戦いに疲れた先人が、そう取り決めたんじゃ。そうは言うても、わしらは陸に住まにやならん。だから人はラノシアに住み、奴らもそれを黙認しておった。じゃが、最近になって奴らは、北のオ・ゴモロ山から南下を始めてのう。この農場も、いよいよ危のうなってきた……。やはりコボルド族とは、対決せねばなるまいよ。何かいい方法はないか、本草学者の「アレンロナ」に話を聞いてきてはくれんか？



アレンロナ : コボルド族との対決とは、アナオク爺さんも思い切ったな。いや、私もいつかはやらねばと思っていた。我々が開拓を進める以上、ぶつかるのは必だったのだ。奴らは徒党を組んで、南へと勢力を広げてきた。だが急速な人口増加で、慢性的な食糧不足に苦しんでいる。坑道で荷車を襲ったのも、おそらく食料目当て。だが、都市からの荷物は、農具や衣服ばかり……今頃、地団駄を踏んでいるだろう。つまりは、食料を囷にできるということ。アナオクさんに手配してもらおうといい。

アナオク : なるほど、食料でコボルド族を呼び寄せるというのか。奴らが腹を空かしているなら、上手くいきそうじゃな。ちょうど出荷前のドーロー肉があるわい。農場の荷物を管理する「スカルンマル」に言えばすぐに出してくれるじやろて。その肉をブラインドアイアン坑道に仕掛け、釣られたコボルドどもをやっつけるんじゃ！

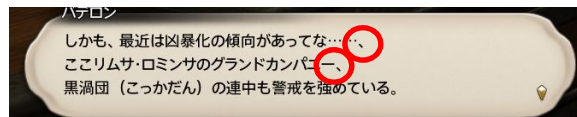
スカルンマル : アナオクさんが、コボルド族との対決について決意したか！ それで、囷の肉を用意しろと。よしきた、とびきりの肉を出すぜ。こいつで、コボルド族を打ちのめしちまいな！ 肉を仕掛ける場所は、坑道の南側入口前にいる探掘師「ク・ワバツィ」に相談するといい。



ク・ワバツィ : ……なるほど、農場がついに立ち上がったか。うちらも協力するよ、奴らには頭にきてるからね。「肉入りの木箱」なら、物陰の近くに置くといい。あとは、その物陰で待ち伏せて、コボルドが現れたところを、ガツンとかましちまいな。

アナオク : どうやら、上手くいったようじゃのう。さすがは◇◇◇じゃ。しかし、今後こういうことはあるじやろな……。農場の警備を見直すべきときかもしれないのう。すまんが、リムサ・ロミンサまで行って、溺れた海豚亭の店主「バデロン」へ今回の件を伝えてくれんかの？ やっこさんは、警備隊「イエロージャケット」にも、何かと顔が利くのでな。いようにに陳情してくれるじやろて。

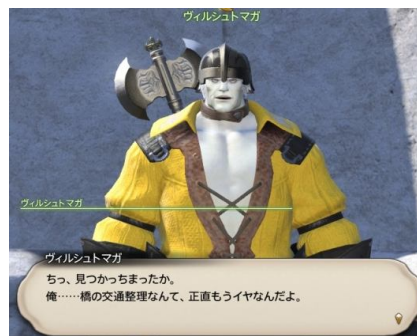
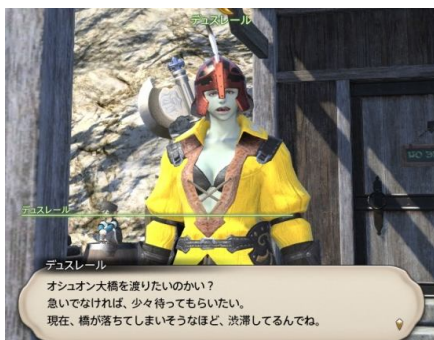
パデロン : レッドルースター農場がコボルド族の脅威にさらされている、だと？
なるほどな……奴らの南下は、そこまで進んでいたか。
もともとコボルド族ってのはパイルブランド島の北部、オ・ゴモロー帯を支配している蛮族だ。
奴らとは古い盟約があるとはいえ、リムサ・ロミンサとは事実上、敵対関係にあった。
しかも、最近は凶暴化の傾向があつてな……、ここリムサ・ロミンサのグランドカンパニー、黒渦団（ごっかだん）の連中も警戒を強めている。
ここに来て、この南下だ。おそらくは奴らの**蛮神タイタン**を再召喚するため、より多くのクリスタルを求めているんだろう。
このまま奴らの専横を許し、コボルド族の蛮神タイタンが復活してしまったら……
リムサ・ロミンサにどれだけ被害が出るか、想像もつかん。
かつて蛮神タイタンを倒した傭兵たち、「**海雄旅団**」も、今はいないのだからな……。
とにかくだ……このコボルド族の一件は、俺がきちんとイエロージャケットに伝えておく。ご苦労だったな、◇◇◇。



校正漏れか・・・？

オシュオン大橋名物

デュスレール : オシュオン大橋を渡りたいのかい？ 急いでなければ、少々待ってもらいたい。
現在、橋が落ちてしまいそうなほど、渋滞してるんでね。
ここは、リムサ・ロミンサ方面とモロビー造船廠方面をつなぐ唯一の橋だから、荷車の往来はもともと多いが……
今日の混みっぷりはヒドイ。
交通を整理している衛兵は、いったい何してるんだ…… すまんが、「**ヴィルシュトマガ**」という衛兵を探して、
混雑を早くなんとかしろ、と伝えてくれ。



ヴィルシュトマガ : ちっ、見つかったか。俺……橋の交通整理なんて、正直もうイヤなんだよ。
頑張ったところで、渋滞は減らない渋滞に巻き込まれた御者は、みんなカンカンで、俺に八つ当たりしてくるし……。
どうしても仕事に戻って言うなら、せめて、俺が交通整理しやすいように渋滞に「憤った御者」たちを「なだめて」くれ。

憤った御者 : 俺は、誰がなんと言おうと進むぞ！ 造船廠で、造船師が荷物を待ってんだ！

憤った御者 : ふん、そっちが道を譲りやがれ！ 足止め喰らわなきゃ、今ごろリムサ・ロミンサについてんだ。

狼狽する警備兵 : あわわわわ……！ 落ち着いてください、落ち着いてください！！

困り果てた御者 : また渋滞かよ！？ 後ろがつかえてんだから、早く進みやがれ！ ああ、邪魔な荷車を蹴散らしちみたいね！！

困り果てた御者 : はあぁ……やっぱり今週はツイてない。この橋で渋滞につかまるのは、今週で3度目……。
積荷の魚が傷む前に、向こう岸へたどり着けるかな……？

憤った御者：……確かに、あんたの言うとおり、一度、冷静になると、解決への道が開けそうだな。
確かに…… 互いに、もう少し右端を歩けば、荷馬車がすれ違えるな。頭に血が上って気づかなかった、君のおかげだ。

憤った御者：なるほど、あんたの言うことも一理あるな。確かに、いったん冷静になったほうがよさそうだな。
あんた、お見事な采配だったな。配達先の人々にも、お前さんの活躍を聞かせておくよ。



狼狽する警備兵：わわわ、ありがとうございます！ これで橋の交通整理は、なんとかなりそう……って、あれ！？
一緒に整理してたヴィルシュトマガがいない、どこ行った！？

困り果てた御者：おお、あんたやるねえ！ ケンカが始まらなくて、物足りないが予定どおりに納品できそうだ、ありがとよ。

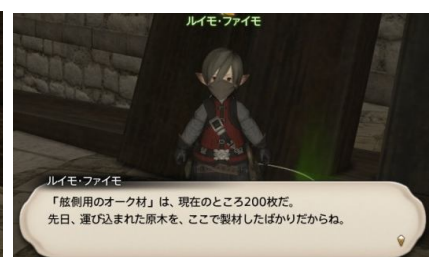
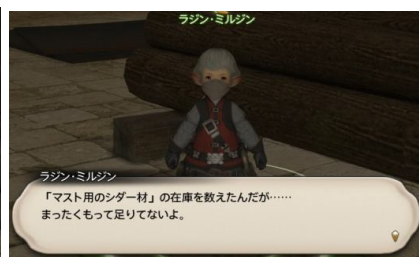
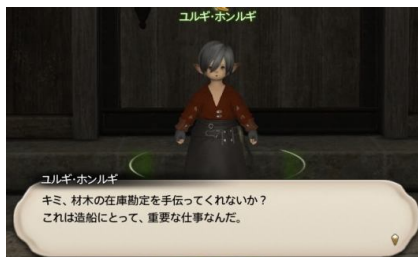
困り果てた御者：モラビー造船廠へ食材を運んでたんですが…… 足止めのせいで、積んでいた魚の半分は傷んだでしょう。
もっと冷やしてくればよかった……。

ヴィルシュトマガ：憤っている御者たちを、なだめてくれたって！？ そいつは助かった。あんた、なんていい人なんだ！！
御者たちが、俺の話を聞いてくれるんなら橋の渋滞なんて、あっという間に解消してやるさ。
それじゃ俺は急ぐから、あばよ！！
おっとそうだ、俺が交通整理に戻ったと、衛兵隊長「デュスレール」に報告しておいてくれ。

デュスレール：ヴィルシュトマガが仕事に戻ったか。本当に助かった、あなたのおかげだ。
あいつは、怒声を浴びると、すぐにへこんでしまうものだね。まったく、この先が思いやられる……。
造船廠には、船の建造依頼が次々と舞い込んでくるそうで、橋を使う輸送業者も渋滞も、ますます増えるだろう。
彼には、もっとしっかりしてもらわねば。

木材の在庫管理

コルギ・ホルンギ：キミ、材木の在庫勘定を手伝ってくれないか？ これは造船にとって、重要な仕事なんだ。
大型船一隻に必要な材木は、数千本！ しかも、各部位に適した材木を確保しなければならんのだからな。
さあ、「上甲板用の板材」と「下甲板用の材木」を数えてくれ。
わが部下の「ラジン・ミルジン」と「レイモ・ファイモ」からも在庫数を聞き取り、私に報告してくれ。



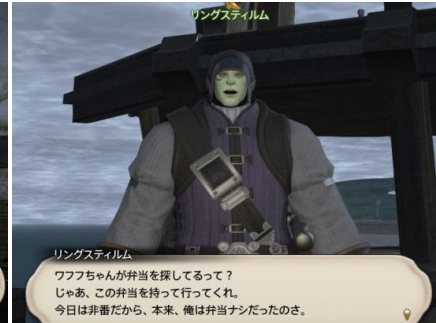
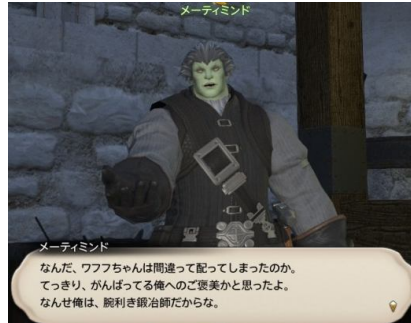
ラジン・ミルジン：「マスト用のシダー材」の在庫を数えたんだが…… まったくもって足りてないよ。
今、建造している新造船「ヴィクトリー号」は、軍艦としても、かなり大型な部類だからね。
そのマストともなれば、相応の長さが必要なんだが…… マストに適した、太くてまっすぐなシダー材となると、
たった4本しかない状態だ。

レイモ・ファイモ：「舷側用のオーク材」は、現在のところ200枚だ。先日、運び込まれた原木を、ここで製材したばかりだからね。
とはいえ、木目が詰まって耐水性が高い良質の板材となると、数は少ないね。
船体に最適といわれるオークの林が、霊災のせいで減ってしまったのが痛いよ。

コルギ・ホルンギ：材木の在庫勘定が終わったか。ありがとよ。……むむ、これは予想以上に不足してるな。
高地ラノシアの木こりたちの中には、霊災を期に廃業してしまった者も多くてね。
この不足を補うほどの材木が手に入るかどうか……。
輸入物には頼りたくなかったんだが…… 新造船「ヴィクトリー号」を完成させるためには、
調達先を増やすことも考えなきゃならないな。

造船師の活力源

ワフフ：あれ、れ、れ……？ 私、造船師さんにお弁当を届けてるんですが…… お弁当が足りなくなっていました！
どこかに落としたか、造船師さんに余分に渡してしまったのかも……。
お願いします冒険者さん！ お弁当を、探して持ってきてくれませんか！？



メーティミンド：弁当を余分に持ってないかって？ ああ、ワフフちゃんから、ふたつも手渡されたぞ。
なんだ、ワフフちゃんは間違っ
て配ってしまったのか。てっきり、
がんばってる俺へのご褒美かと思
ったよ。
なんせ俺は、腕利き鍛冶師だから
な。
帆の留め具や、ロープの掛け金、
それから大砲…… 船に欠かせ
ない品を、この手で生み出して
るんだ。
弁当ふたつでも足りないぐらい
さ、ホントはね。

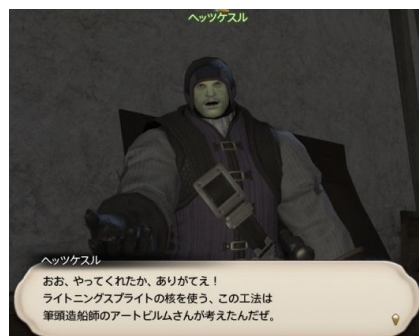
リングスティルム：ワフフちゃんが弁当を探してるって？ じゃあ、この弁当を持って行ってくれ。
今日は非番だから、本来、俺は
弁当ナシだったのさ。
じゃあ、ここで何してたのか
って？ この建造中の「ヴィクト
リー号」を眺めてたのさ。
明日は、水漏れを防ぐ作業を
するから、特に必要そうな所を
チェックしておきたいね。

ワフフ：なくなってしまったお弁当は、見つかりましたか？
ひい、ふう、みい、よ。うん、
ありがとう、びったりあります！
これで造船師のみなさんも、頑
張れるはずです。
今、みなさんが力を合わせて造
っている「ヴィクトリー号」は、
霊災後に初めて造る大型艦で、
リムサ・ロミンサの希望になる
大切な船なんです。
船が早く完成してほしいから、
次こそ、間違えないようにお
弁当を配ります。

リベット打ちの秘訣

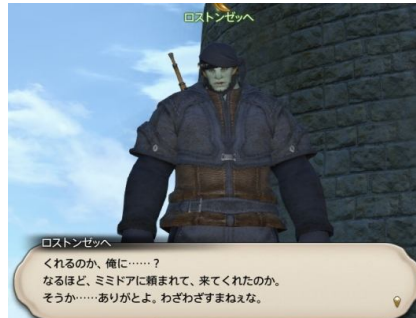
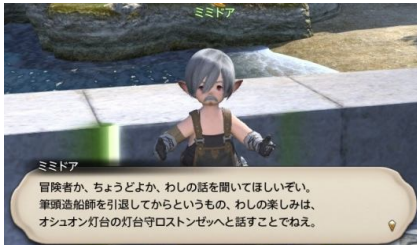
ヘッツケスル：俺は、リベット打ちの達人よ。水漏れせんように、鉄板をガッチリと接合するにや、真っ赤に焼けたリベットを打ち込まにやならん！
コツは、「ライトニングスブライ
トの核」を使うことさ。こいつ
でリベットを加熱すりゃ、効果
テキメン。
だが、こいつの在庫が、ちょい
と心許なくてね。「ライトニン
グスブライト」を倒して、その
核を3個ほど集めてきてくれよ。

ヘッツケスル：「ライトニングスブライトの核」を3個だけ。リベットの加熱には、そいつがいちばん具合がいいからな。
おお、やってくれたか、ありが
てえ！ ライトニングスブライ
トの核を使う、この工法は
筆頭造船師の**アートビルム**さ
んが考えたんだぜ。
あの方は、本当に大した器だよ。
造船師を志したのは、遅い方
だっけのに、あっという間に筆
頭造船師に上りつめたからな。



孤独な灯台守

ミミディア：冒険者か、ちょうどよか、わしの話を聞いてほしいぞい。筆頭造船師を引退してからというもの、わしの楽しみは、オシュオン灯台の灯台守**ロストンゼツ**へ話すことでねえ。
灯台守というのは、孤独な仕事だから。あやつは寂しさをまぎらわしたいのか、いつも人形を彫っておるんじや。その材料は、わしが届けてやっとのだが、最近、足腰がガタついて、灯台までの道のりがしんどくての。そこで、わしの代わりにロストンゼツへに「傷のないジャッカルの牙」を4本ほど届けてほしいぞい。その辺にいるジャッカルを倒して、牙を引っこ抜くとよかよか。



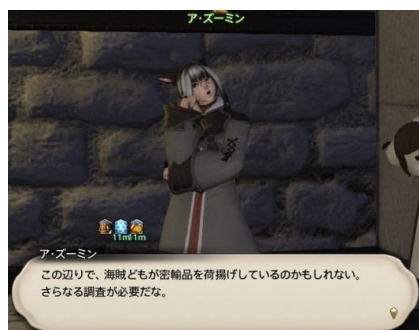
ロストンゼツ：大丈夫だ……俺はまだ、灯台守を続けられる…… 「傷のないジャッカルの牙」さえ4本あれば、きっと……。くれるのか、俺に……？ なるほど、ミミディアに頼まれて、来てくれたのか。そうか……ありがとよ。わざわざすまねえな。これだけ牙があれば、しばらくミミディアが来なくても寂しくはないさ……ハ、ハハハ。……俺は大丈夫だって、ミミディアに伝えてくれよ。アイツもいい歳なんだし、いくら寂しいからって、気安く呼びつけるわけにもいいまいよ……。

ミミディア：おお、届けてくれたか、ありがとう。……アヤツめ、ずいぶん後ろ向きになってるようじゃのう。ここは、早いとこ、アヤツに会いに行行ってやらんな。カワイコちゃんに、背負ってもらってな！ いや、むしろ腕に抱かれるほうが……。むむ、ワシがカワイコちゃんにくっつきたくて、アヤツをダシに使ってるわけじゃないぞい？ すべては、さびしがり屋のロストンゼツへのためじゃ！

外来種の水際退治

ア・ズーミン：私は、メルヴアン税関公社の者だ。最近、見たことのない魔物が増え、埠頭の荷を荒らすという苦情を受けて、調査に来た。問題の魔物は、「外来種」…… つまり、本来バイルブランド島に生息していない種類だ。この地に定着してしまう前に、根絶しなければ。ここから北東のあたりにある「魔物の巣」に、この「ドーダーの腐肉」を、まいてみてくれ。奴らが肉に群がってきたところを、残らず退治してほしい。

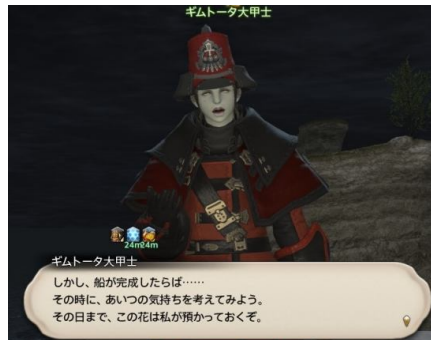
ア・ズーミン：根こそぎ退治してくれたか、協力的に感謝する。それにしても、なぜサベネアン・マイトリングなどがこの地に入り込んだのだろう……。そもそも、このキャンドルキーブ埠頭は、外国からの積荷は扱っていないはずなのだが。この辺りで、海賊どもが密輸品を荷揚げしているのかもしれない。さらなる調査が必要だな。



果敢な灯台守

ロストンゼツヘ： 灯台守ってのは、船と航路を守る尊い仕事だ。わかっちゃいるが……孤独には、どうにも耐えがたいときがある。アイツに告白してりや、今、横にアイツがいたろうか……。いや、今からでも遅くはないか……。俺の想いを、アイツの好きな花に託して贈ってみよう。アイツの名は、**ギムトータ**……。モラビー造船廠で警備隊長を務める、できた女さ。「エンプティハート」で「ラノシア・リリーベル」を摘み、ギムトータに届けてくれないか？ 芳香に魔物が群がる危険な花だ。注意しろよ。

ギムトータ大甲士： 灯台守ロストンゼツヘからの贈り物だって？ そうか、あいつは、まだ私のことを……。だが、悪いが、あいつの想いには応えられん。私には、警備隊長という役目がある。「ヴィクトリー号」が完成するまでは、この役目を投げ出すわけにはいかんのだな。しかし、船が完成したらば……。その時に、あいつの気持ちを考えてみよう。その日まで、この花は私が預かっておくぞ。



ギルドリーヴ開放「モラビー造船廠」

オウラヴァン： 仕事をお探しのようですね。私はオウラヴァン、冒険者ギルドの一員です。こちらでは、魔物討伐や物資の調達など「モラビー造船廠」周辺から寄せられた依頼をご紹介します。ですが、中には危険な依頼もあります。あなたに本格的にお仕事をお渡しする前に、こなせるだけの实力があるか確認させてください。私が取り扱っている依頼をひとつご紹介します。まずは、このリーヴをこなしていただけますか？ ありがとうございます。そうそう、「ライトニングスブライトの核」を使えば野生のクラブに紛れた「ビッグクロウ」を見分けられます。「ライトニングスブライト」から入手したらクラブに向かって使ってみてください。

オウラヴァン： 依頼したリーヴを達成していただけたようですね。では、報酬をお受け取りください。あなたの働きぶり、しっかり見させていただきました。これなら、どの依頼をお願いしても大丈夫ですね。モラビー造船廠は軍事的に重要な造船所のため、あなたのような信頼できる人材は貴重なのです。これからの仕事ぶり、期待していますよ！

